

指導計画案・WORK 実習例

事例 5 「野生の厄介ものを食べに行く」

ページ	p.32～35	
所要時間数	1 ～ 3 時間（事前・事後の家庭学習時間を含む）	
目標	・事例を通してフードツーリズムやジビエの可能性について理解し、観光が農産物被害といった社会的課題の解決にもつながることについて考察することができる。 ・ジビエや野生鳥獣を観光資源として活用している事例を調べ、その担い手や地域の課題や特色などについてもまとめることができる。（WORK①） ・ジビエを観光に取り入れることのメリットを多様な視点でまとめるとともに、デメリットについても考察することができる。（WORK②） ・地域の伝統食や名物に関心を持ち、観光の目玉として取り上げるにはどのような取り組みが必要かについて具体的に考えることができる。（WORK③） ・地域の社会的課題に目を向け、その課題解決に観光が役立てられないか具体的なプランを立て、実行可能性についても考えることができる。（WORK④）	
授業展開例		
時間	学習内容・指導内容	留意点
（必要に応じて） 事前家庭学習	・事例を読む。 ・WORK①の調べ学習に取り組む。	授業内でコンピュータやタブレット端末を使用できない場合や、調べ学習に時間が取れない場合は、事前に事例を読ませ、WORK①の学習に取り組ませる。
導入	・本授業では「フードツーリズム」「ジビエ」「観光による社会課題の解決」をテーマとして取り上げることを確認する。 ・冒頭のイラストを示し、本事例について概観する。 質問例 「食べ物を楽しみに旅行に行ったことはあるか？」 「果物や野菜の収穫体験をしたことがあるか？」	フードツーリズムの事例をイラストを活用して理解させたい。 また、単においしいものを食べるだけではなく、地域の課題を解決する側面もあることに簡単に触れる。
展開	・各自で事例を読み、気になった箇所にマーカーや下線を引く。 「ジビエとは何か？」 →狩猟して食材とする野生の動物の肉 「フードツーリズムとは何か？」 ①野生の厄介ものは栄養満点！ 質問例 「ジビエ料理を食べたことがあるか？」 「どのぐらいの野生鳥獣が駆除されているか知っているか？」 ・p.32 の側中のグラフを確認する。 ②ジビエをフードツーリズムの目玉に 質問例 「ジビエツアーに参加してみたいか？」 「うどん県以外に、この土地といえど	事例は 2 ～ 3 分あれば読み終わるが、ゴシック体の語句を確認することで、キーワードをつかませる。 本文の内容について、質問することで、内容を理解できているかを確認するとよい。 地域にもよるが、ジビエ料理を食べたことがない生徒が多い。地域にジビエ料理店があるかを調べてみてよい。 ハンターの高齢化についてグラフで確認する。 ジビエツアーについては「大槌ジビエソーシャルプロジェクト」の Web ページにある動画を見ると思いが伝わり、ツア

	の料理と思いつくものはあるか？」 ・WORK①に取り組む。 設問 WORK① 「ジビエや野生鳥獣を観光資源として活用している事例を調べよう。」 ・WORK①で調べた事例をクラスで共有する。 [Advance]各地でジビエツーリズムを推進しているのはどのような団体かを調べてみよう。 ・WORK②に取り組む。 設問 WORK② 「ジビエを観光に取り入れることのメリットをYチャートを使って整理してみよう。」 [Advance]各自が整理したことやデメリットについてグループで話し合ってみよう。 ③野生鳥獣とどう付き合うか 質問例 「野生鳥獣が増えて社会課題になっているのはなぜだろうか？」 「ジビエを日本に浸透させるにはどうしたらよいか？」 ・WORK③に取り組む 設問 WORK③ 「自分の住んでいる地域の伝統食や名物を調べ、観光の目玉にするにはどうしたらよいか考えよう。」 [Advance] 上記で考えたアイデアをもとにツアーを開催するとしたら、開催にあたりどのような人や団体に協力してもらう必要があるか、どのような課題があるかを話し合ってみよう。 ・WORK④に取り組む 設問 WORK④ 「自分の住んでいる地域の課題解決に観光が役立てられないかを考えてみよう。」 [Advance]自分で考えたプラント似たような事例が実際にないか調べてみよう。	ーの内容もイメージがしやすい。 本文はジビエを中心としているが、広くフードツーリズムを理解するための質問もするとよい。 ジビエや野生鳥獣を観光資源として活用している地域の共通点などを考えさせるとよい。 Yチャートの使い方については、「本書の使い方」のQRコードを参照。 Yチャートではメリットを3つの分野から考えるのが大変だが、さまざまな視点で考えるようにグループで取り組ませるとよい。 デメリットについてもYチャートでまとめてもよい。 本事例は、「社会課題を観光で解決する」ことも大きなテーマであるため、単に鳥獣被害をなくすというだけでなく、観光として有効活用するという視点を持つように促す。 さらに、伝統食や地域の名物などが食の欧米化や後継者不足などにより廃れていってしまう現状もあるため、そうした食を守るためにフードツーリズムを活かすということも考えさせたい。 考えたアイデアが実際に実現可能か、持続可能かといった点についても確認させる。 話し合ったうえで、自分の考えを再度見直す機会を設ける。 WORK④では食を離れ、広く地域の課題解決と観光を結びつけて考えさせる。
発展	・事例インタビュー動画「「害獣」を「まちの財産」に変える 兼澤幸男さん」を視聴する。(12分53秒) ・視聴しながら、視聴ワークシートに内容のメモを取らせる。	インタビュー動画は、内容のメモをとることに追い付かない様子が見られる場合は、途中で一時停止して、区切りながら見せても良い。

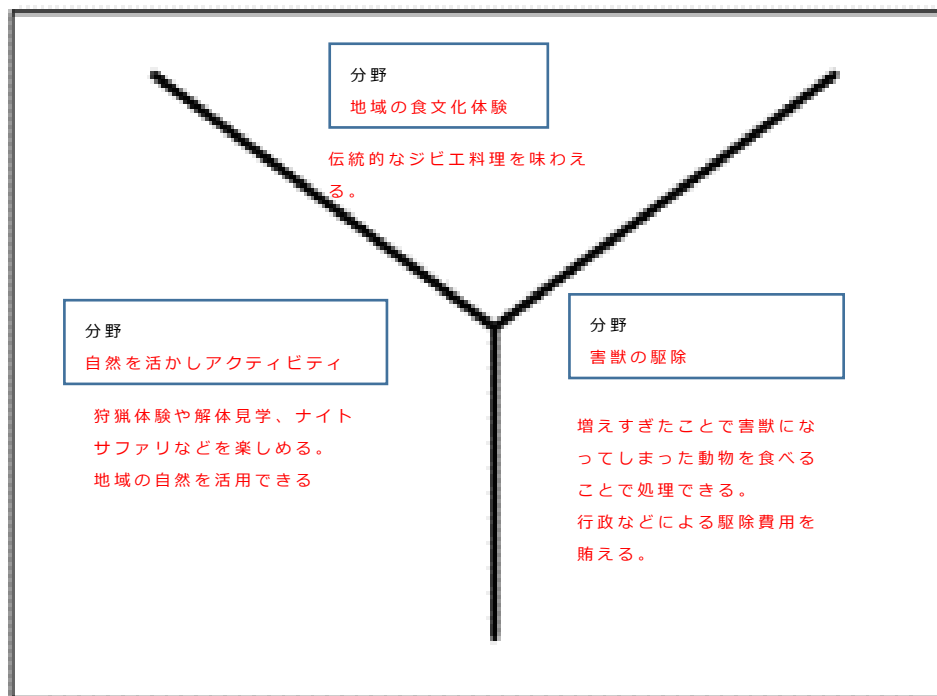
	<インタビューの主な内容> Q.1 MOMIJI 株式会社の事業内容は？ Q.2 ジビエ商品にはどのようなものがありますか？ Q.3 食肉以外にはどのような製品がありますか？ Q.4 ジビエに関わる事業を始めたきっかけは？ Q.5 「害獣」を「まちの財産」に変える取り組みに込められた思いは？ Q.6 ジビエツーリズムを始めたきっかけは？ Q.7 ジビエツーリズムの参加者の反応は？ Q.8 ジビエツーリズムにはどんな方が参加している？ Q.9 御社のミッション「出る杭になれ」とは？ Q.10 高校生へのメッセージ	<内容のポイント> A.1 有害駆除された鹿に特化したジビエ食肉加工の会社。 A.2 生肉でレストランなどに卸すもの、インターネットで小売販売するもの、味付け加工したものやジャーキーなど。 A.3 食肉加工する過程ではいだ皮をなめして革製品を作っている。 A.4 ハンターとして鹿の駆除をするうちに、奪った命を焼却炉に捨ててしまう現状に疑問を感じ、活用できるジビエ事業を始めた。 A.5 鹿は人間の都合で害獣になってしまったが、それをただ駆除して捨てるだけでは鹿に申し訳ない。きちんと食べてあげることで、鹿が本当の資源「まちの財産」になると思っている。 A.6 少子高齢化が進んだ町で、ジビエ事業を通じて町に活気が戻ってくればよいと思った。普段狩猟をしているところは、外部の人にとってみれば魅力的な場所だと実感し、ツアーを販売した。 A.7 捕獲し、解体して食べるところまで一貫して体験してもらうことで本当の「食育」だ、と感じてもらえた。 A.8 小学生から大人まで、東京から毎年60～80 人ぐらい来ている。解体体験プログラムには修学旅行生もいる。 A.9 地方では周りの意見を聞かない出る杭は難しく、根回しも大切。新しい土地であればとの土地の歴史、文化や人に敬意を払って自分のことや考えを理解してもらうことが大切。まずはサポートしてもらう体制を整える必要がある。 A.10 高校生の視点で情報と情報を結びつけて、地域振興につなげてほしい。
まとめ	・「内容のまとめ」、「感想・印象に残ったこと・疑問点など」は、視聴を終えた後にまとめさせる。 ・ p.35「学習の振り返り check」に記入させる。	内容のメモは、話を聞きながら内容をメモする練習にもなるので、きれいな字でなくとも、あとから自分が読めるような程度でよいとする。きれいにまとめようとさせない。 インタビュー動画についてだけでなく、この事例の全体を通しての振り返りをする。

WORK① ジビエや野生鳥獣を観光資源として活用している事例を調べよう。

地域	事例
例) 岩手県大槌町	プロハンターに同行する狩猟見学や鹿の解体作業や鹿肉のバーベキュー体験、鹿などの野生生物を観察するナイトサファリの開催。
高知県四万十市	猪巻狩や罾猟(猪・鹿くくり罾), 鴨撃ちの同行ツアーや、猪・鹿の解体体験や見学、ジビエ料理体験などができる。
長野県下伊那郡	南信州 泰阜村の野生獣肉加工施設もみじやが、日帰りジビエとわな猟ツアーなどを企画、開催。

Advance…各地でジビエツーリズムを推進している団体はどのような団体が調べてみよう。

WORK② ジビエを観光に取り入れることのメリットをYチャートを使って整理してみよう。



Advance…各自が整理したことやデメリットについてグループで話し合ってみよう。

WORK③ 自分の住んでいる地域の伝統食や名物を調べ、観光の目玉にするにはどうしたらよいかを考えてみよう。

地域の伝統食・名物 菜飯田楽
観光の目玉にするにはどうしたらよいか 大根の収穫体験をする。(収穫した大根は持って帰ることができる) 捨ててしまうことも多い大根の葉の簡単で美味しい活用法を知ってもらう。 市内の飲食店で菜飯田楽を食べる。

Advance…上記で考えたアイデアをもとにツアーを開催するとしたら、開催にあたりどのような人や団体に協力してもらう必要があるか、どのような課題があるかを話し合ってみよう。

WORK④ 自分の住んでいる地域の課題解決に観光が役立っていないかを考えてみよう。

地域の課題 農産物の収穫に人手が足りない
上記の課題解決に観光が取り組めること 農業体験をしたことがない都会の人に楽しみながら収穫体験をしてもらう。観光がてら 1 日働いてもらってアルバイト代を払ってもよい。

Advance…自分で考えたプランと似たような事例が実際にないか調べてみよう。